俗耳談

乾

番外書册

和書門
類 二六七四四號
函 一〇五
架 九
册 二

内閣文庫
和書
類 二六七四四號
册 二
函 一一二
架 一一二

内閣文庫
番號 和 26744
册數 2 (1)
函號 212 166

212-166

隨筆 五

共二本

俗耳談巻之一

門人　加藤元敏筆

寛斎先生口語

一　亥ハ命家ニ配ス豬ト同シ　野豬ハ山ノ豚ト云フ蓋
古ハ命名ニ豬ト野豬ハ別ニ訓ス古ハ
ヒトツ訓ハ和ヤマヒトツ訓ハ和ヤマ
ヒトツ訓ハ和ヤマ云フ今世ナ
ルヒトツ訓ハ和ヤマ

二　肖屬ノ図ニ卯豬ト画クハ誤ナリ

一　弓折箭竭野語述説引李華弔古戰場文云鼓衰分力
尽矢竭分弦絶此亦異域同談也合類節用集亦引
古文後集載此文某
桁ハ用法多ク用法多ク弦絶ト弓折トハ近矣
ヤウ折箭ヤの字元花説ナリ傳灯録ヨリ

これらの文のちがえるやうなるもの元和元年ハわかち

一 ちかのきれぬと槌とハ純きりの漢書周勃傳其椎少

注師古曰謂朴鈍如椎 和名目すかたこ同し

一 ヰとハ記すものと性とハこれ郡名ハ五雜組ハ深此

とハ文字ハ他未記今或ハ牒字くハ非なり

一 葬ハ木槿むくけなりこれとわかるるすハ非なり葬字

注朝華暮落わかるハ花を謝し易し年中とまり故

ハ名ハ一年云葬ハ舜ハ瞬の省と紹し

瞬年瞬ハ似たるハ瞬又て葬の省ハ舜又蕣ハ

一名なり説文ハ見えたり

一 孫のよとひこと孫なるこれ孫字ハ非なり表ハ男

子の美称中ハひそこるれとこと異しなり女ハ姫と

ひとし対なるひそこる女なるひの字孫ハひこ同なり

孫ハひまこれ異なり又とハ孫ハ孫祖父とひ

ちくしひハ蓋古言なるん

一 秋稲ハ出れつきしるけ油とあるもハ死なるとハ美法ハ效

べらなるん宋史五行志曰淳熙十二年八月平江府有蟲

聚于禾穂油洒之即墮一夕大雨盡滌之なるのときと

人の芳油の黄殆益なきしれなるハ旦油の價も縱さとれ

わすして芝ハ羅ハてそ和ハ火とさく附ハ法くすと

又新但ハえてしなるもし

一 斎東俗談ハ勿卿と解して曰梅六書正偽事物ハ物

本只勿字後人加牛以別之然ときハ物勿本同字く
俗訓の勿祓即物祓なりと来按ハ物祓とするときハ
色すり勿祓と云ハ非なり古字の勿即物なりとハ然ん
然も往古已ハ勿物と云我俗伝のこふれとゝわん

一

街談云不孝のるゝ者ハ父の命ふさゝ父死ハ勝んく
ゝ子ハ謂て曰我と水死せしてて即死ぬさるなり
らくゝ不孝ハて父の命ふそ遠ゝ
なしもれりんとて屍と水中ハ投しゝと以事南陽
雑俎及侯怪物志ハてゝ髮らくハ毛とゝく伝ゝ
むゝこれのゝなり呉邦のゝとゝく我ゝとする

一

猿と馬れ守ゝとするハ中華既ハ土ゝ獨異志曰東晋大ゝ
将軍趙固所乗馬暴卒将軍悲慟客至吏不敢郭璞造
門語曰余能活此馬将軍遽召見璞令三十人悉持長
竿東行三十里遇丘陵社林部散撃俄頃擒一獸如猿
持帰至馬前獸以鼻吸馬起躍如故今以獼猴置馬廐
中此其義也郭璞又搜神記ハ詳ゝ
行合と同ゝ
ゝ伝ゝ
ゝ音ハ後れゝ

一

世ハ振落とゝ
ゝ高買ハ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

も彦といふ字組合とちかふれさるゆへなり

一 几幕といふものは辟(ヒヘイ)脛は衣(史記) 裾は脚(漢書)鳫の脚に掛る

は連ろ不坪(雅)璧(ヒヘキ)裾(ハクモ)袁の窠(本草綱目)告ことことと幕とす

一 けふり究竟(ヒラケモ)すには夷より洛陽一万三千里ここに其

を辺まり出わる華夷通商考詳なり宋史に載注華國

と中花より四十一万四千作里わかりなく千百又十日

古き唐土より我国の緒まて七万里計なれ

一 之我國は白夷の事を論ずに六信せり此洛陽来未に

すこともかに字列に弁わる

列子に四十万里東に焦僥といふ国ありとみへしは

一 ぼんぐといふ字一八の字を用ふは本俗の字

とりて俗字に災すしく一八捐篤子(京作息子)消耳中

の垢と塗くしのなり(京師にて小とりしとほんのくといふそ婦老の上痩とかんかとといふ)

一 荘子秋水篇荘子曰鯈魚出遊従容是魚楽也恵子曰

子非魚安知魚之楽荘子曰子非我安知我不知魚之楽

云云 一休和尚一休失物なく詩するとき蜆子として荒俗

と答問すこれ此之と元朝の詩もし一休の詩を八来未

掌之れと作せす 一休和尚我大ゟ蝸牛の字を荘子と云ふ

一 平清盛三言のふるまひ絶せし京比の詩ものはそろ人詩

逐やむやむことはやみと書きて行それて云さるの自に詩と

やめすて人の口と威すに行それの外に平氏の世と縫ぬ

室かなる為に肯周房ことに民と鬱す國民となる主人として

侍りたとそうして教す詩やむこと年かてとと氣を流す
はせ国行ってくらく又呂氏春秋かとえくり民を人
りう人と虎して吾恵と為とすはくしうまわん

一 同机写の座子家と作か行の像を曰或琵琶法師曰首
生佛叡山ちたく目盲伝授前田行生子家の行と撰
して元と通せし心生佛の事を城玄の聞石亟玄唐
よ於て方古口授とうう机写わくく子家と許り初
し毛生佛の黄と慕の主たりう世ろこれるりしんと
はは記ものこの伝来韋編りくこれ数くはりと中絶の故ものわ
りるのん 續高僧傳曰永徽年中有人無首不知何来
彈琵琶誦法華經一部向望人山先彈琵琶曰誦經首

娛在山亦不測所終今ものはは琵琶とは英伝と
まりのの義ことをとりと子家はわつりす知れも
はは盲人琵琶たくう浮世子家は屋子故子家と
作ることはは琵琶の盲人の作ものはくは所合
一 俗云一曰三里大毛ものとしてつくくもれるり大代疾く
くりうは一曰豈光三大里りんや今の世迷れ名わる
ものは一曰四里計しものとはは先は天質りりては
屋子は前長谷川宗仁信長の訓と備中のうはは岩
行後古ナ作里代光の豊は二曰りを宗仁書と没すは三曰
即豊臣家 即ものの刻より元 彩武者物伝及後古 元盛
後とうう 即ものの刻より元 彩武者物伝及後古 元盛
法里と殺すりん知は八繊九寸りう一曰の歩り古里と

為り此代を後世と問す中英明張献忠一至東行
七日星明李遺岡已大抵右の人一同し（作物を二分に別り集り）
のとき八人を牧多仰ち戸の仁係り為ハ又忠一人
の〻

一大の鉄りきハ小と計く初ハ又抵て手紙と問ひ
きもれを今年一石の投と初んと欲られハ一合代投とか
それ一石の牧初位ハ此しの這合ハ拾銭しきハ一石
皆計ちも彼と此とハ差ちも故這合ハ拾ち所拾も
大多ち差り位を計きハ一代のすり聖ハ者す
歳三百茎と計て多初拾しられ
甲歳 先一茎と年十歳の故年ハて又一茎と年

又次ち幸ち生し又次ハ代ち生し次年迷ちて清
ハ二茎或三茎正茎と生すしおハ小て生すハ小又ハ
大ハて生すハ大又多ち為大為大為多ち
これ少とちて多と初きものあり此人千年れ歩と
ハて生始拾と見ることもち印と覚ちて蓋これ小
係る凡事大ハて多差し小ハて少拾て故一小ちハ
事大と拾とする拾ちすち必初れを乃と初ち
のハちんハ就ち他こと此ん

一俗戯訳ち玄獣の蹄の刺てあるハちち疾し故麻れ走ち
て迷ちこれと新して日初ハ馬ハられす牛ハさられ
お及てハ伊そ初ち馬割さちハ小歩ち若さけ

疾こと人の宗とすきものにれけり牛諦さく破くれよし若し
けさるかハ一倶に歩きし又一人己か宗門に傲りてあを倚
て日吾宗門に非人ハ富と状雖し側に一人ありて日東氏
の宗門外にて高六才ハ何そ経り此宗を以花氏の為化宗
つきしハ已に乞丐かり人二ツ串皆淫く詞ともぐ昔孫楚か石
に漱ぎ流に枕せんといひしハ知九ちへなりされと花ハま
けく石に漱くハ歯ととんあるかり流に枕するハ耳と洗ハん
あるかりといへりし世説新語にみえたり又呂氏春秋別類篇に曰
相劔者曰白所以為堅也黄所以為牣也黄白相雑則
堅且牣良劔也難者曰白所以為不牣也黄所以為不
堅也黄白雑則不堅且不牣也又柔則錈堅則折劔折
且錈焉得為利劔中むも又くれをきこてとる世に云へんさ
へるといふものあり

一武術者流云凡武藝氣ハ才気に充満して一に偏かるさる
と岩ゆて理に拘一旦に出るものハ勇氣却て漸損と悲れ
ともも神妙の域に至るへからす所の遠に至るへきに非と列子
曰粥子曰欲剛必以柔守之欲強必以弱保之積於柔
必剛積於弱必強人の生する所くれかしの自然之し

一肯丹波の大江山に酒顛童子といふものありて處女と召将
行源頼光卜部季武等とともに至りて之れを殺せし事古年
記にこれを載す秋梅國桜陰腐俵及井沢氏俗説弁に
白猿傳と引くいかく即此事ハ大江山のゆふ[illegible]

色々と奈未紛らと世子い白猿伝ハ元陶九成集る論郡
正集ニ川載ス去を世ニ斎多るこれとなる玉紙し大
江山のるハ世ニ去ニさるとの行ニくハ世の人れ伝る不
まわ〳〵千蓋市ハくれやさ街談そやつ〳〵えて〳〵
同白猿伝ハ行るる日白猿れるハこれわん但紀年
ハ未考実ニ生ス 搜神記曰蜀中西南高山之上有
物與猴相類名曰獲國一名馬化或曰玃猨伺道行婦
女有美者輙盜取將去人不得知其無子者終身不得
還十年之後形皆類之意亦迷惑不復思歸語曰牲わ志
亦載之事全同し但ス夫ハ名曰猴玃一名化或曰
獲玃ハ或伝写の誤ハ白猿とハ蓋しわん但十年

の後形類しと志惑とハ伝いハるるわ知ら

慣ひきあるハ非ス

一 向原今岡口家わ弟子と亦岡口ハ一名ハ曰柔
ハ岡口八命右氏心社ハ武芸小伝ハ伴ハ居
会ハ岡口活ハ社ハ伝書 伝書倶名 倶ハ紀列の人ハ世ハ考
ハ大抵同しく活ハ祈ハ我口先年ハ伝とハ考
ハ放誠ハ右氏心の流と嗣井沢井沢ハ人我ハ寓
ハ世ハ伝と称ハ平ハ放口俗誠ハ平ハ
ハ戸ハ弓削沢川等ハ門人多きハ
一 天地の虚ハ道化の妙奇ハ
〳〵ハ著三ハ時魏ハ大流布とハ
碑伝

立つ小石を蛇と誠に知らく碎と麻を南内これと紙
今は出さと云ふ列子ゆし因橋之の河西戎より獄を
生ずれ物なりと云ふ化せり世もの必ず生ずるハ
偽りなり四天の獸千里ハ角ハ吾ハ行ず
一 土龍と云ふもの三ツ一ハ蚯蚓一ハ蝘蜓鼠一ハ鼈

俗耳談巻之二

寛斎先生口語　門人　早川敬明筆

一 問貘爰と食子と云義如何 白俗説の堺雅日銃髪骨
実無髓皮碎温湿以為坐毯臥縟則消膜外之氣字从
膜省蓋以此也三才圖會曰人寢其皮碎瘟圖其形可
碎邪今貘と画く度丈余或ハ子まの丈と変もれ
ハ即こ云ふもの丈と爰と合ずと云ふ我俗の附合なり
一 問彼こ新して類せるとそくハぬと云ハ行て曰これ蓋
そこわハぬり齟齬不合なると罪節用集齟齬の細書
云物のちるハそこしぬるこ修そこハぬと云ハちるハ
ぬること何吾ハ此と云ふもそくハ語るもん

一 扇ハ字ヨリ平聲ニモ用ハ方ニ方ニ方ニ
ハ字ヨリ活辭ニシテ用ヒテ軍ニ入ル
一 贖物の徴ガ母ト女の徴ト爰ニ命ジ
ん集ニ入テ永母の徴ト陳辭乃ち
一 問四十二の尼伝の格ニ曰ク先ニ忘ルン世
俗ハ訛又ニ之ニ古ニ秦ニ亜樞の岐俗
説ニ引ク説ニ之ニ元ニ小ク小ク四十二ニ
ハ小ク小ク俗忘ニ子ニ子ニ子ニ子ニ
小ニ子ニ俗ニ子ニ子ニ子ニ子ニ子ニ
一 世ニ人ニ子ニ子ニ子ニ子ニ子ニ
之富皆主翁之蔭也ニ子ニ子ニ子ニ

一 士八一言ニ子ニ子ニ子ニ子ニ子ニ
饒鼎ニ子ニ子ニ子ニ子ニ子ニ
第三子春ニ子ニ子ニ子ニ子ニ
ニ子ニ子ニ子ニ子ニ子ニ子ニ
日吾ニ子ニ子ニ子ニ子ニ子ニ
の射句澤ニ子ニ子ニ子ニ子ニ
吾盟ニ子ニ子ニ子ニ子ニ子ニ
ニ子ニ子ニ子ニ子ニ子ニ子ニ
一 七月十八日盂蘭盆ニ子ニ子ニ子ニ
要覚云梵語盂蘭此云救倒懸也盆則此方器也

一 盂蘭ハ却ちう盆ハ未ちう
戦場ニ行候ニ出ハ却てわすれ物ニ成ル軍法必
ーと手放ニ忽閣ニ及ぶく切と云ふ
俗書曰 ハ尺ニ切ハ法なく之内墨遠近と知ることのれ
非ニ付節ニ臨ンと欲ス 敵ニ対ス
ふ云ふ合てくく事ニ云ふ
一前ニ云ふ事ハ人ニ対ス
云ふ云ふ云ふ云ふ切ニ対ス
と云ふ云ふ云ふ切ハ敵ハ付ニ
ふ云ふ武ハ法ハ
て竹束の間ニ云ふ竹束ハ

一 相伴ニ云ふ云ふ
毛利ハ云ふ云ふ
るふ云ふ云ふ
一 特と云ハ床といふして床特と云ふ 特の詞ニ床のし
ふて云ふと云ふ俗ハ茶と云ふのわと云ふくと云ふ
兎狸狐根野猪凡又色々ニ問歌ニ云ふのし云ハ行て
曰ニ義と云ふ 此毛吉の伝ニ云ふ 精進か
とハと云ふまれのう云ふいハさるかん
一 問歌ニ云ふとけさんと云ハ行て曰ニ義と云ふ 松茸紙
拾穂抄けさんの意解ニ俗ニけさんのもとすれ
ハ元けさんと雅ニ云ふやこれ或ハ紅ニ人の持器

う或ハ双等分れ同じく今考上ること

一同治元年三月の老男女と載こ分れ其の況れ

ハ中日こ分の中ハ去て他家の中ハ女子

砂の中ハ此す余況黙駅編に詳ふて

一表紙と指のくく一てい元と一ひろと云ふ是一国之こと

郡人の長と同倣小の差ハ人ふ長し小布雅云倍仮

謂之尋尋舒兩肱也れ一ひろうを云ひろと例す

中也て淮南子云人修八尺故八尺而為尋亦老人の

長ふと舒ふと同ふこと知ふるなり

一凡書と云ふ後一三のことを云て ふてふ吳ふふく

一治氏の治号同じさらくして同意

一古治氏と云ふ治令志と云ふ及て治ふ意

と知ふこと伝曰ふ氏と長寿寺教妙義仁山大居士と号

治ふ氏京都ハ等持寺と云ふ治令ハ長寿寺

と云ふ

一同美とわつもれと云ふ美ふ凡ての例ふ日字書ふ美ふ

人味和美と云ハすて美ふるふ又清汁美汁と

云ふ又肉美と云ハけむ汁美ハ清字可ふ但の

つのとハわつもの美さまのわハわつのとハい

ふ是ハ時にのもれたいくこのん字ハ的者

なもも訓ハ意せさふ

一庸俗神と称すること天照大神

とも云ふ　されハ佛氏のゆゑにより於て事師ともに教証
をとりて神をいはゝる教の詞ありて又ハ九方
八十軍神ともに二十八宿なりとも其色を冠る
ものなり

一　俗語にいはゆる日和なりと雨降ること
なり日和なりと雨降ることなり但俗語雨降
とはなりとせハ日和と雖ども雨降ともいふ
ものなり元来既に悪法編に無ぜ

一　佛に天藏菩薩地蔵菩薩なり今我俗時地蔵と称する天
蔵とは是なり仏俗のこゝ伝ふ所なりといふ

一　日月火星七曜とは羅睺計都とを加へて九曜とす俗世
曜の星九曜ともいふなり日月羅計八星
に北斗を加へ文選注引周書王曰余不知九星之光
周公曰日月星辰四時歳是謂九星なれハ八星
北斗も亦總くハ去りもこのなるゝ

一　叶ふと云ふ　おまきるべきもの一八先規のことゝ八型の
字刀捨捕作の術ゝ方の字雖ども折
ふこゝ八形の字皆を摂ふとすれもの為一
なる俗云ふこゝ云ふ
ふ仏の義なるとも蓋ふ
ふ弱せしふ

一　凡毒ハ毒ハ必これと毒すなわち金蝕ハ蠱毒多

代毒とけすハ蝟多う福信ま今蟹多れハ蝟とうま
とゝ焼多ハ大毒りと代毒とけすハ犀角ち故ま
焼あれハ必犀わるとゝ

一 問かハれ早とハ行て曰かハれハ内ち曙とゝ咲れ早
とゝまとう藻塩草ま又てこれハかとれの特ま
物ま役雑と古ハ語ち多ま多てをたてれ内とゝ中
人の面のたきとうるねとまを

一 益軒翁異釈名ま和の名の釈われも物ち礼ま
きもの多これ悪くハ釈ま浦く宋鑒せハ皆
釈すきう知も往古名つけハいうる事ち事ま

一 きうま一万葉集ま多うまとゝ仙原抄ま食
ハうとまうと浜千代とまるものち仙ち
なるとゝまこのの字魚とゝまみやまて浦鑒
すとゝまも芭ゝ亦てハ故てすとゝかれま
と記すこうと

一 三浦大助百六又浦治高百とゝまと吾ち俗のゝち
又衣笠城ち死ち年八十九ま浦治千鹿裏記ま又てう
浦治ま治ま幼ち帰アとうち三百四十餘年ま日本
後記故事談等ま又てう新天ま幼ち芭蕉ま幼と
ハ土ち年と悔うる牧千ま記れ文ま祝すゝ
一 問三月ま与と上巳とゝまと辰巳の巳成巳の巳二説ま新
見ち日漢ハ巳日と月ま魏晋ハ後三ま月ま巳の

四拘りなきし宋書に記せしかども予は然とせず
一 すべて人倫とするもの皆月日数均しく故古三月より今
にて已日と日しるしるしもいまだ
しらざるなり又三月朔午りれば上旬に巳りれば已る
らんといまだ繫辭を謝肇淛曰巳字原訓作止謂
陽気之止此也則已恐即是已字以説蓋先人然也
一 干支干は拘りなきはは非ず草木子曰古人之節抑有
義焉如元旦上巳重午七夕重陽以奇陽之節偶月則
否此亦扶陽抑陰之義也これ節月日数因とるべく人
義とすべし況すべくのやうに附ハ人のとるべき節前とすべ
の説も亦行すべきなり

一 問てれくよ云書字の上人六根清淨なるべしとて至れりあるを
きてはけられしといるべしと白土子世に作ハ六根
清淨なるべハ多就りしの声軍とるべしこれ尚数多
況云説とそ又況也ものさらるべき世人六根清淨なるべ寺僧
作性室のことを見佛基燈京六根清淨なるべし元
亨釈書に云又世法花経に方法ハ六根清淨
なるべしと釈書に行堂三十作法と通といるべき六根清淨
なるべとハいまだ考るべとしるべ史あるべ

一 一休宗の書に白川色氏信一休の序に一句と作て
出す紫野ハ丹波近江一休寺ハ白川黒谷隣られと東見
記に載て白と茶後すべ云白川隣黒谷ハ紫野近丹

波祐長老

先ハ一体の事ハ必ず志られ元ものと
も但東之記もなんの一体の内の人の事ニ而
さのゝ狂りなるものゝ如し事ハ内ニ而七八月能へき
ものゝ悪くハ行しなし

一同厄禳ヶ河内東方朔ハ九千歳と云行ると云日面付
あるを毋ヶ桃と竊しゝ仙ゝとするを漢書ニ
元年と記せる及好事のとれ千長安と謂く仙化
するなんなるもを東行のを出ると云千来拾する
事文類聚巻四十四云東方朔封中游鴎濛之澤忽遇
老母采桑於白海之濱俄而有黄眉翁指母以語朔曰
昔為晉妻託形於太白之精今汝亦此精也吾却食姦

氣已九十餘歳月中瞳子皆有清光能見幽隠之物三
十年一返骨洗髓三十年一剥皮代毛吾生來已三洗髓
一代毛矣此事東方朔別傳ニ見へ中ニ九千余代
をこれと云或ハ朔ニ作るの日厄禳ニ行て代毛
及ル人日ニ云ハ子位ハ代のこと子 衛談巻
説の中多く人の回れると代るものを皆学ぶ
ゝ世ハ代ニ云ハ事ハ代ハの中ニ或ハ云ハ公も川
毛或ハ丹波奥の沼ニ毛を抜とのあ和漢ハ侯
ゝ奇異新談集及犬張子等ハ中ニ代ものこと
同ぜゝ字ハ代ハ日今せゝ淡と日ふを徒海れ字と
日ハ字字ニ狂ニ狂ニハ門のくんぬきくるものゝ

蓋古人定字世世ハ必ず須建の字と倩てこれ
ヨミとなすなり 説文關注閉下牡也玉篇固關今不
可開」廣雅釈室曰投謂之關鍵笠戸牡也」關字門ヨ
ク以旦廣雅釈室中ヨ牧ることハ門ヨつきしるもれ
くるるヨ非ざるし又説文鎖注鐵鎖門鍵也」字彙鎖為
牡鑰為牡くれてくハ須海一方ほくものるを小爾
雅廣服曰鍵謂之籥注扃籥也亦作鑰これこと廣肢
ヨ牧ものるをハ多ヨ佩ものれり小爾ハ漢の孔鮒
著すなるハ漢已ヨ以ておくく門牡の義と偽る禮月令
曰修鍵閉注鍵牡閉牝也疏凡鎖器入者謂之牡受者
謂之牝俗云鎖須閉者鎖筒也今按凡鎖ハ鍵ハ
ハ凡ものなるもの名なり漢ハ須ヨ同し疏不曾俗云即
今のぜんり用て又按ヨ漢已ヨ建と須と列して一定
とすぜんハ即方ヨ防ヨ定ことなりてハせんヨ牝牡を
乃鎖と用とすり用と宜て牝ヨ建を牡と
さすの用ひさんハ以ヨと信る説ハ須とせんヨ建海
とすきとすこう今俗注とハきとすこ非ず注ハ按
牧の名なりぎまハすすず又洲蒙圖彙ヨ須此云主
音未詳系按せしハ蓋洲ヨ
ものハ
くくハやまるるハ
一同印神判ヨ行ものと日雍州府志遍照院條日有
義滿云神判之地圖凡公方家賜采地時始貼公方家

之直判而為證其次記米地各々名及俸禄之実是橘
袖判紙之端摘衣服之袖故和俗謂印曰判以是別其
人之義也亡神字の義うら判の義未詳蓋判ち
なを契うらは字と元ちんん別判合判とゆくと
四方合方といいまち方内と謂く判内といいまち古
の判といは蓋花押のこと思の名ハあるさらう
おかうしく思ふ文くうち道ぬゆる一説恒しとゆく
もこれとつねハ兵き人と為る人とる子と一説ハ固恒徴
ぬくと為るの場ことしす説ふ為ハ千万代説もわの
收ちやせん若あるの士父の喪ふ遇既ふ忌係んとする
及くそ名人として謂て曰世ち髮と判らすして也
ふと髮ふれ士前て曰い髮不去ちう先判く指吏ふせ
せんとせくしてふの曰ふ先それとのりてはもくな
ア〳〵ふ付今の不去の髮ときうすてしいす伝云
一つと同事ゆいもりもあの場と起すハう
し世ふくれぬうるるるくうんとうゆし
一同妻戸といハ伝の義て曰新和集云男女ぬと妻と
ゆ衣のすてとつふゆ上ういと合てれハ法湯
舎合れんうう妻戸といハたれ戸と合する故ふ云うう
一陣の上弐ふゆ弐の弐ふハあるふ弐ふれ蒲穿といめ
う錦踏れハ蒲穿うく故ふるりくハ錦の弐と為
う文選注漢書注ふくうう錦ハ我ぬるさものう
らハ

一 何ものかいとなく義を曰仲妹なるものもこれあるべし
世をいとなむ中にあるべき仕方なり 債主に対し奉公段々
あるべく利行和奏他の抑揚褒貶媚と求る仲妹
ならずとなりしこれを今俗いふ妹と
行ふものと多くいわるべきなり 仮といふよりなれば仲妹
とは中もゆるされず媚諂とは言葉に似る故
媚の仲妹といふべし

一 人疫わるべき不快といふ元也仕りて

俗耳談巻之三

寛斎先生口語

門人 柳川通故筆

一 俗侠なるものの故筆といふ元已に仕るべき筆もて
彩を仕用るべきなり本紙俚俗云体屋の白んまを回
化技業とする者は皆それと情じ淮南子曰屠者羹藿
為車者歩行陶者用缺盆匠人處狹廬為者不得用用
者弗肯為高誘注為者不得用以利動也用者不肯為
以富寵也て下和同しきくのみ

一 乾と巽は本色なるべき故に古文にては艸と以て
元象形なり 俗は巽は本別なるべし巽と巽
以玲瓏なるべし 乾と巽は巽と巽

蔬といふなり（本雅ヨ第ホ留之華華謂之榮
ゑくハ已倉氏の四ヨハ此ナ）

一 朝鮮の諺文ハ朝鮮の字書なるに近ごろ和国の
俗名れくすと称れ農事直説と称することにも
そなのりとうとうそてゐく者館璀粲集ヨ凡百六十
字載てをれもくせ日ヒうしこと悉曇ヨ從て皆ハ大
吳ヨり悉曇ハ之密抄伴ヨり又五部ヨ作る集等わるも
以作まん難組の字ハ百祈千文のまゑてうに元代横
文字ハ書ヨ我ろハまん者ゆ者作のりるとしとえう
彼国代結りるとひ一字ヨ拵ヨ作ヨ分ヨ皆ヨ二十
四字ヨ作ヨうしれ者の文字ヨ作ヨ来ヨ文字ヨ
ヨ作ヨ

一 書記辨大学非孔書辨と或ヨ作ヨ子人ヨ作ヨ
ヨ作ヨ辨大学非孔書辨ハ本と
語孟字義中の篇名ヨ

一 永何ヨ好まん紀ヨの作ヨ名ハ天地万物造化倫陰陽自
然変化論歴代帝王年運詮要大般若波羅蜜多経等
ヨ

一 そんちゅうそれとハ蓋朱文朱ヨ作ヨ朱ヨ朱ヨ
信長記ヨ尊文ヨ作ヨハ非ヨ作ヨ凡て者人ヨ作ヨ
ヨうそんゑうそれハ大抵同等のヨ作ヨ

一 潭のすゝ沼のもゝヨ作ヨ徹の字ヨ作ヨ唐
詩ヨ洗竹ヨ作ヨ潭のすゝ月の義大ヨ異ヨ

一 何のゆまるとハ何の変ゝるとうヨ日本神武紀
日難波之碕會有奔潮太急因以名為浪速國亦曰浪

筆今謂難波訛又盾津今云蓼津訛也又毋木邑今云
飫悶廻奇訛也これらはてゝ〳〵訛はゆのわけさけの
ことはわるし

一 指と一枚二枚といふは非なり指とわけてもといふ指は
本定て此は西く合の借りしると指しこれは事なり

一 煙うりとく煙と云ふ者うつりとく女蘿と云ふ新乳なる
ものも稜とこれは笑とうたてこれも似ることて忽ち
きんや向さうとも也とは行て日こるいこ樹こ掛くたしだ
ものこと色もたし者の仕りたりとなりとも
こと麻績こ仕ふ也の名り稜は木こ在也きん
一 合類節用集こ東他地注出名俗字に我こ里ヤ
とりもこれは西は何地とつゝうう訛うう蓋東ふうと一
うもものうん紙もまつまひひたせ
一 ものもいこ河いれはうとしてこりもゝく毛と吹て祇
と求うの後行こ仕ふ大字紙おれ作下合成の仕ふ想
武士お先と知〳〵もしとやこ思きんこく又云中奴うさた
ち鄙こ一車こ進く此方の力と考こ化遠祇なれとも
今のこ考こ河越谷牧こ悠川こ殺失年家あれ云さす
う合も情く考し拾こきこは分こ考こ考こ考こ考こ考こ考
此後人集云夜く詩こ中きれも考こ作いるし
ここてのもしかこ羅うきうと云こは今云せこと
く毛非ふくここ考こ考こ考こ考こ考

一 佛字を佛麿の佛麿下法の為佛教等の
ことは必義わるん事未伝の義と味ふ
一 向小人海の人の指形ていそうそうと伝るる日こ
也わるものの文獻通考曰小人在大秦之南軀幹三尺
其耕稼之時懼鶴所食犬秦毒衛助之今此國草しび
る小人草とりはこれらるるる又傳物志曰鶴国
男女皆長七寸海鵠吞之腹中不死某按此鶴国れ人
のるくふるるは鶴のまるく伝るるん通考いるる三尺の
人ものくるる食るるるるるは蓋此ほるる物
はわるるるる

一 向陝捨山の故事曰日本大和物語及後拾遺抄
こうるるくるるり俱るる新和集に引て是を伝て看る
十 石人烏蘇の冠角と又るるる冠纓と伝る蜘蛛の網と引伝
又るる庭園と伝る芝偽出れるることと師とるの説
也天の月形と出るる自巧とるるるるお祈れれるる況人れ
るるるるるいるる巧わる是を知るるる量師とせるるるるるるん
人間事と和るる間おるる無んるるるるるるるるるるるるる
一 向木瓜轉筋と廣するるるるるる名とるるるるるるる伝
るるる日木瓜実轉筋の事とするるるるるるるるる
陶隱居るる伝るるるるる云る如轉筋時但呼其名及書上作木
瓜字報愈伝説庶くるるるるるるるるる醫書又云應
聲病と治せんるる百茅の子とるるる此治方るる惟雷丸

[illegible]ゆるく声をあげ困てこれを脱して舎と並要法をなす
[illegible]ものは人をもつて病ひを耳わん和と茶碗と
[illegible]ものの句

一人の技能を事なれハあるいハすれ事
技と孔ハさんと欲するハ是なり　淮南子曰舟覆乃見善
游馬奔乃見良御　これ不虞の事なり況や他人危と
ぬるを技の徒なり游くれ妙なりとして舟の覆らんと
と恢ゝんや或人曰此事に遇るものハ九人を事わるハ
一人一人も亦皆命の存不存なるも益かなれ似ら
と皆好のきなる器ハ此なるハ是て舟ハ命ハ
しなり舟を倉ふ似ら

一凡人とうふる人二人只人のゝ訓を以て作ハ活者とんよ
一人とはなり二人とをなるとゝ人ハ人とは初よ人西を
人をもゝいひしゆゑ是ハうるハ字ハ毛ふるうるを
なんゝうるて人れハうるを人とは人を人をもてれとき
まなり詳に考へるす

一むごいとハ主なる湯桶読なり主張と見るる今人の
暴虎なるとむごい事とするむごい人或ハむごいをといふ
なとハあるる人と懈ゝくむごい事ゝ以ハ常すこれも
人の事ゝ困苦なる狂ゝいてうるる問主と書況
あるる日伝説なるゝ古ゝ湯桶なるゝ但化せハ後成ゝ
の前ゝ立せすハ人の二ハなるゝまゝ　あの衣ハこれなるそし

印とし行ふ人れハ的面ゟ上世の初ゟ形ゟ此し

一 沓の字俗三ツ目すぐとつちんとまいとゟてハ沓

まいハ澤ゟ金澤ハ金口金吉ハ金口ハ金吉ハ金ハ吉ハ金ハ吉ハ一こ

一 笠掛者小の二種を只笠鬼と以ハ者笠鬼ゟ弓馬之秘

書曰小笠ケのつかてまんの笠ケのゟとゟ小ハ者笠

鬼と以ハ又京邊ハ小くゟ者皆笠と以射法一

流ゟ大笠掛小笠掛とゟ大とゟハ忍くハ倍ゟん又歩

射的ハ神前の祭礼ゟ一ゟ者ゟ歩と以一流

ゟ射と書ハ京語ゟ

一 茶家ゟ茶の下ゟ茶と茶敷字実方盛ゟ

改て釜牀ゟ他ゟ用て曰釜敷此言如物在上而其意味

難惕この弁ゟ可ゟ然ゟ其の詞ゟ多

ゟ浴く改ゟ谷休京漢字ゟ風呂ゟ

風呂と茶ゟ又風呂の内ゟ茶ゟ風呂ゟ

ゟ他の用ゟ湯ハ混ゟ中ゟ

一 本列の瀬戸ハ陶の名ゟ者茶器ハ本のゟ陶と

造ゟ名ゟ通し今瀬戸物と以ハ皆陶

ゟ播磨の枚ゟ紙と出ゟ品枚ゟ以ハ紙と知ゟ

京波のゟ茶村ゟ詩化と物ゟ京ゟ茶ゟ化と

ゟ大手化ゟ琵琶の明安ゟ物ゟハ枚ゟ皆ゟ所

の名ゟ名ゟ五雑組曰今俗

語窯器謂之磁器者蓋河南磁州窯最多故相沿名之

如銀桶朱提臺桶喻糜之類也和也一ものなり

一 向仏供ものは三羹三麺の内惟羊羹の御る雲羹
鼈羹其制多日子首五菓菓子麦麩求りに云
とひき彼も出てさらや御前菓子秘傳書ものとなし
すれども識なわんれ多ひ〳〵
胼多蓋並ものなれ
れすれども多ひく

羹の字和尓雅に肝ハ俗とあるとて牛肥な牛

一 向蛭川新右衛門ものは東迎ものは坑川ものなりと
ものと対もく程ものと伝ものるに曰は年一休御ものの
すものくハ虚設ものるく蛭川晩年ハ所ものに髪せし
ものは法師の名ものて其の旁彼ものを那了好ものの
者彼伝者ものてものと役ものの介一休御ものの図ものを

帰俗首ものくものなと拵ものも髪ものとものるものや
新武者相伝云伝芳寺家名親尚入ものして名温
法師ものは又人相史ものは云後名名温ものは髪
髪ものいものもの既ものの名温ものものなものの
一 氏十八月一日と書くものもものもの保ものもの月一日
の法ものく繁と説くものと拾ものるの放ものの衣史ものは八月明ものの
かづものものは穂拵ものの晩日と一日ものもものは吳宮姓
氏角一釋迦牟尼佛ものものものの丹波ものは正ものの居
ものの士釈迦牟尼佛報負ものものの明名軍記ものものもの七
すものものくものものものの東ものの大重記ものものもの
一 武ものの河祖先の姓氏ものは利ものくものの史ものは恐ものものもの姓

一字尉しくるまやまに名つけしも有り尼子家にまゐ
しち十男十女八さのことも有りし但足師三十人斗れ姓
字鄙陋なりし武家にも名乗にみえしより賤民凡人の
きしと称すものゝ

一世俗わ流に今ハむかし越おちちめ時とてさえわる世にあ
さしうきる人ハ紫式部か歌よりけめけり源氏ハ作り
しるやこゑかゝりることを見ともしなきにハうきせらりけりとかし
今世の人源氏ハ紫式部か作りしといふハ其歌のよき
ゆゑしとしるものまれなり

一長柄とは称するもの四緒傘　桃子輿

一清少納言枕草紙ハおれしろ車ハ治わりからるを言ふ車
紙といふものと出す　枕草子と傳く木　尽んとさうしとそ　をよみ孫や答話
謚ふとしあるくおきとわつらひ中花之雜纂とこいふを
正次持四海わり俗何ろ事と集めし又一再を係せえとし

一同じ俗人の事をとせるといふハ方丈か日名東斉随筆云今
東戸かさしそうすへ人わらんとそいふ流きる事業の如く
人事これなり京あしい細なり亦今ハ俗語にもわらす

一同浩納の柳と柳柳といひ又梁柳ともいふハ宮ゝ見る日
今ゆゑよりとし又とも元下柳柳ゟ古老軍わ記日松永
弾正和列にきく嫉ときま欲心わくまて深く我家中より
出入酒柳をせいこうく造りて世柳柳と名つけこしさし式とさゝハ
しけ製久秀まをしまうこをせいうしり柳柳と名付る

かくて借納にハ志ゐ持とふへし

一信長記に載荒木村重か人質を京師に誅する時にも中に伯と云する者の罪に刑に臨て獨言して晋秦の事及孟子の語をひくゆゑくと常読れるく迷ふ此時に当て何ぞ此語を耳に留るるれんと編者れふうけり假令ことわりとも云難るへし編者事てこれを詳かにして実を虚にせるか年代に云一て相六本枚に会すと及大數を七郎に進れ説のここ固よ虚説なる然とも皆当時は巻読故にこの事ハ虚説のしくして巻読ハ実りり編えのことに俗く虚亦実となり実も亦虚となるなり

一同居士の義ナレ日居士元於記に出る鄭康成注道藝處士也なせ自これを以号とするを士二居士 欧陽永叔 蓮室居士 史容 六如居士 唐寅 等是なり佛氏の居士も此義に非す翻譯名義及釈氏要覧等に詳なり

一同或云蜻蛉と研て銭二文に塗て遍く商うて至夜の中に一所によると何なるか曰これ盖長吉の餘々策に出るとうくいかんこれハ古妓の語なり蜻蛉にハわれ手向を従わに日巻五曰或人云るけるとて子虫を妻夫の契深きを後のふ所に是れ放ち又れをわしハさんとす時此虫妻夫これとおく様に二文まかけて市に出しく二の銭とわれ人に一つてこれと売商人がいとりてハとく給りての枚もちてすとわれてもも契深きよりてりよ

八必元のゆくつかぬんて仍今と云これ高附伝ふ仮か
らんなるに未た蚊の説と云て故に或人の仮と云うう
ちに蚊と仍国ふ物りう同た蚊なり日搜神記
曰南方有蟲名蟦蝎一名鄉燭又名青蚊形似蟬而捐
大味辛美可食生子必依草葉大如蠶子取其子母即
飛來不以遠近雖潛取其子母必知處以母血塗錢八
十一文以子血塗錢八十一文毎市物或先用母錢或
先用子錢皆復飛帰輪轉無已酉陽雜俎ニ云ふれと
我国ニ而云合作孫賓と賓ハ帰錢をすてとい事
信ずや否と云て三年ふこれとうふ孫翼ニ
発へしすに彼孫翼わるもれなと云て

とわんや云くい妄誕のこと例ふ安城竊盗のものふ仮
らう云くこれとしるもくれ何ぞ

一大ふくさ白人と御うたり首萬とりたの守屋ら
ゆよ死ぬ大きくる大萬ら屋の倩めて吹て
して逆死ぬ事ハ日本崇源帝紀よ又こう又仰堂
関白反と厥こわくしと云ふ出ふる大叢と加へ川手
雄と兎も殺ハ事ハ東弁ハ弟及子名拾丸こ又て
ら又牧夫ふる軍ら後くおふふ妻僕ふ牧
史内ア云と教ふとすも出ふる大ふ僕と嬢く教
ち事ハ元亨釈書大寺条又こう中ハ記多
一同国のんハ次と熟ふ云ふ日国

を温く適すといふことこれ我ロロ
れしこころわすす

俗耳訣巻之四

寛斎先生口語

門人　柴田成美筆

一　わるるのまくるるしことすす巧とふるすすを一旦眼と表ハ
しるしいくしくしりれるよわ〜されハ久しして厭ふる
されを謝霊運ら詩ハ初て発する芙蓉のやし就文年
ら清ら沖と浦儒と列らこと高村二氏の作と許を
ろくのこし就分と拵ろまてこれとやらしろ但侍の
こるすす仏の藝も同し但藝のこるすす仏の本も同
但本のこるすす樹木とこるる假山と造る巧とるさるハ
又く風景をなるとし

一　吾人る而ろしく他吳わすしこ巧を迄〜すす姑子ら文不

と記す四角のうきハ六人くらいて食ス一若狭ハ年
産と接桐ハ〇わり裏列の欽色乃茅ニ家食
するといふ木芳ハゆ〇こハ九人の松とする瓢ハ三斗ム
ゆ入〇いふ古語余目好世ずといへも必虚ずハ此し
以作れわん平産京師ニ立河を立ての徑七八寸
世もあるとゆ〇ハ河美濃ニ都南瓢ハたりひ
〇惟此のうあくくれとも況世界の産ニ内ハ
く悉く虚誕とすくるハ
漢志敦煌條注今猶出大瓠長者瓠入瓠中食之首尾
不出〇唐書大食條云有尋支瓠大者十人食乃尽〇
酉陽雜俎云浴陽報德寺梨室六行〇又續集云澧崖
樟瓠成実率皆石餘〇又云大食勿斯離國石榴室五
六行〇述異記云北方有七又東南方有三又梨〇明
一統志蘇門答剌條云茄大如酒瓠室十餘行〇東斎
紀事引羅浮山記云第三峯有竹大徑七尺圍節長丈
二葉如芭蕉名龍公竹事林廣記作長二丈北戸銀作一丈又亟云有三十九
節
一 化〇〇石と成造化のくらい能ハ〇ハ但化〇
非ス〇〇〇月ハ〇形と〇ハ石わり〇ハ〇の考ハ〇
ハ〇ものハ〇長門の海辺傳ハ石筋茶香推れ涙の新石
ハ〇ものハ石ハ化するあく形すして立ものわり〇ハ〇
陽雜俎〇我答石も答の化ハ〇ハ〇ハ〇ハ〇中実と〇

八幡宮石清水天王の人字ひらきてかうん
どさとうくうす

一 原中務とゆうを和光乃家の事や佛氏のようわるを
技業故事要畧ゆ法をひくく詳ゆ記せゆ野代述伝
にも亦載を

一 等持寺八尊氏の菩提所なりゆる氏軍と和平ゆ孔ゆを
賜ハ一四ゆ三箇寺をゆ〳〵と玩勝てい寺と建ゆ故
寺号ゆ寺の字と三ツ入と彫御仏伽ゆきし未代ゆ
や者と立てゆ立れも寺の字三ツ有〳〵八人の家れつ
ゆをとりゆ

一 ゆ人のおゆ語ゆ為ゆをとりゆ者ゆ悲ゆ介
俗語て辛を為ゆをとりゆ見ゆを者ゆ人ゆ為
ゆをとりゆ

一 近世為倉将軍の付事と流ゆしゆる書ゆ絵と画き入
ゆゆゆを大人を為帽子を頂袴ゆく左ゆお
ゆの方と拝ゆる或ハ刀ゆとゆるものゆハ上ゆとゆを世
ゆむゆれも同ゆゆゆゆゆゆ上ゆハ義為ハ付ゆ
ゆくゆゆゆれも小者ゆとハ者ゆゆゆゆゆゆゆ
為者ゆ付ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆ知も義為の付ゆゆ起ゆとゆるものゆゆ余
引ゆ考異ゆ必ゆゆゆゆゆ為ゆ集ゆゆゆゆ
令ゆゆゆゆハ付ゆゆゆゆゆゆゆゆ

一戦場に於て法勇なるもの和漢貴賤を問はず
し、戦場にわかれすてて二人勇と倉て欲と小児のと
くなり人ものハ猶長谷部信連と云のごとくなる
宇盛の弟なりく云とのものも亦正直なれハ子盗し
て勇と成して殺さすして他国に流せり中等
ハ飽去て此一人勇と倉て数十人の賊と逆ひ戦ひ
母と降妃とと云人ハ此ハ帝の乳母なり亦小
児のごとくなる人なり親器なり詳なり平氏二人より於く
亦成わり並なる勇わかれハさるものと云ひさの
勇士と云へし

一
建久四年と云ひと云ひ建久四年と云ひ

いかなる人ハ中にもこれと混せす
と云ともの月といつもの罪なり揚用脩の説よりてこれ
一御伽ぞうこと大法なるものの虚誕なるも悉くこ
れなつて子と内子伝へくくなる実事も畧ぬき小児と
新御伽とを比式人のごとに宋人又人又事小説麦切
とおしきとおもひとすしい人皆食傷の病
出来て吐泻をしくるの夕二人ハ死す彼三人ハ死なく
命ハ別紙なり細書云ひ此の切口とそ切とかを
忽又双信とをくなわといつれしと兄弟ハ人のなる
なり系いまこ試こすと云ともこれとそ子抜ぬきと
なり故と無疑とさるものなとおれ一さものなこわ

らず干寶が捜神記も悉くハ怪談にあらず 十一二三
の光字と相似ハ実字のこと
一 まさしくおもひこちなきとあるを柳に萩の花と似たり二名に
詠列西光寺の又秋和と以隣志すゝしといふ作り侍
名なり又何の係とこれと牡丹係と出くハ芭しても
訛あらん形状色類牡丹に似たり又橘吉人云いふらん
凡ものゝ出来る白かくつく坂に書ニ出して隣家
にあゆこれが名ハ係られども得くに及ばす故に書か
一 同じく又鴻係とニ名称施也
一 同ニ年礼ニ庭法師ニ六見ニ此后字為白海人藻苅曰
関白息并俗後大将後大内言とよし於憎中後侍
侍臣後法師とまもや似れハいふ見ても関白の男の名なり
いかなる人 後ハ後下の男か
一 同烏帽子折ゆす左右見ゑ曰左右侍従主上見す左右
八人侍見す有識小説に之てしらす装束図式に
左右大臣家ニ似るくかなるとあるを未ニ詳とまう次
一 同兵家に首一級二級といふハ何の故ぞ級といふ曰是華語之
登壇必究曰秦衛鞅説孝公變法斬一首賜爵一級注
丘文莊曰後世計首級以定軍功始于此
一 生姜とせしハいか以蘘荷とめし如く以ニ草一葉の形
同じく非大小異なりといへども見るさんせしとめ
うとしハ形かくなりし姜のきなふなりす 蘘のまめ

ふ非す並て此国の訓より

一 主を君武主盛主を源の渡る妻と教て逆判髮しく
又兄と名つく源平盛衰記に俣野より来報らく人と
教て刑小弼兄を如家しうるゆゑしうる為内
刑法のごとく盛主を渡る洋より出るまと教たる人
とかは盛主をかなこのん渡妻の餞ごとし
正くなりくわ[illegible]に兄と兄を教て教て逆判髮しく
小弼源渡のゆゑ世ともよてうの法のきいりて平
又極ふかは世兄しるハ義なり和も髮表紀の文
てハ義況よりけり盛主をよせ世ともしを仏のなり
りく逆て兄と極りとうくうう

一 を世帯し大字と書くたくみ一方を个の如くハ方个
晋書衛瓘傳曰至漢靈帝好書時多能者而師宣官為
最大則一字徑大小則方寸千言晋ゝ書の盛ゝ世
御ふ徑丈の大字と出奇とたれハ高内ハ也や宰ゝ
ゝ个世ゝハ丈や二丈ハ[illegible]ゝ一文謂て曰近者に
戸渡弟れ堂の背ゝ方八間れ整の字と出くゝけ至ゝ
もとの徑文ゝ比たれハ二十ゝ倍ゝ方寸千言し个にて
寺ゝ千来ゝ年京師ゝ又ゝ[illegible]胡麻子の上ゝ三
社神名とゝ又来拓の上ゝ人と画く敷色せゝ明の花
内叔し切麻ゝ二十二字と紙と弟伏弁能の改ゝ人ゝ
元盖面背ゝの枝ゝん御ゝハ三社字枝ゝ品一字多

一今代字数とんくんハ方寸ハ大率三寸作もく（き）
なる字ハ人の技巧ハ弱きものゆ能もけ大小（ナカレト）
用ゆ非す文字大さ二三四分合ゆ数すゆ能
ものゆ人上ゆくハ日月ゆ非す況三四分人ゆ
ハ用む罕ゆ高大ゆ小皆人の知（ミ）のく
ハ必ゆくゆゆ浅くゆ久しと欲ゆとハ及く猶
迷（ヨ）ん俚話曰人を服疾とゆ子醫ゆく曰ハ目けく
みくハ内のすゆゆ茶けにて洗ハ曝すと各三
遍相拾入ゆときハ金一ハ即これゆ醫の法のハ
くゆ鳶わゆゆと攫くゆ醫ゆと狗眼と
ゆこれゆ代用く目ゆ目ハ内ゆ但屠ゆと

ゆ昔扁鵲魯公扈趙齊嬰二人の公と入くゆに公扈ハ齊嬰ゆ家
ゆ入齊嬰ハ亦公扈ゆ家ゆ交くゆの妻子ゆ列子
ゆ交くゆ亦毛ゆくゆものハ亦ゆ既ゆ天紙ゆ亦の
死所行ゆくゆ人命死ゆ亦ゆ亦ゆ
ゆ一家ゆ亦ゆ弟ゆものハ知ゆ既ゆ異ゆ況ハ法
くゆくゆ況人ゆ

一地の名ゆ亦くゆ方別ゆ我知列ゆ庫
伏兎ゆくゆこれと和知牧ゆんべんゆ
冨田氏ゆ亦ゆこれゆ神戸氏
とんべんゆゆ漫ゆ或ハゆ

わるさうなし

一 あとられ足指損し故に歩ことを足と入かへてゆくもの
あまたけといふハこれを用てかく千鳥といふハ鮮の流
ゆるとめといふ字ハ綱して丸に一つ綱にあるれハ立とすく
りんとしく文下あつくいる救りんとしくハくもつて
しく大抵つくすといふ華名信息といひ何事友千
名とまるもこれと同し

一 同恵方といふハ曰年徳神のまわり此神の在方毎
年かハれとも恒ゑのまかそくとの方ハ在を同何
つ也又ゑといふ曰ゑハ兄也弟ハ弟なり甲ハ木の兄
乙ハ木の弟といふことなり此事運氣指南後編に詳し

一 同破軍の劔先とむく人ハ諸負のまけ負といふ事曰劔
ハ昴 建字の誤のしを比かる節月なとに七曜の図
わるもの劔と画ある星の名也 淮南天文訓曰斗杓為
小歳正月建寅月从左行十二辰咸池為大歳二月建
卯月從右行四仲終而復始太歳迎者辱背者強左者
衰右者昌小歳東南則生西北則殺不可迎也而可背
也不可左也而可右也其此之謂也大時者咸池也小
時者月建也今世斗の建さきとさくる蓋こゝにおつ
ともとくあることく久し

一 同日月の大きなる日志て一教同天地の事を近日月れ往
古来説有して何とも志らざる曰皆妄なり說実かくして

来これと集りく天地里程考と号す赤ふ巻れ
りとい〳〵も好事の志れ為に編とのすを辞と
天文弁妄中よりえらら

一 まし猿より仏ちとりは猴猴ちう又毋猴とりまし
とい梵仏摩羅新吒ちう

一 向籤簡しい疫と号の符りとりと信ずる日本
にて赤書ふれい寄る疫避られ義わる紙と今
試ふとうすし無くれとなるいは千人の内まとれ
信敬ふ付く巻ふとりて但これとして扶い
ふん向扶らしいは行て日行しくと無て鎖く赤
妨り平ゆ年の内一老人の話すとすと一時

疫人中て家ふれとる或人札と好ふ用ふ通文赤
ふこれ先友語ふ巻日札と扶ふく門ふ粘ふ
を無して居ふ一人ふを問て曰門ふかやれ札と例
ふふしいは毎日疫と号の札りとて文のくれる
りとを家ふと御すは家ふ去ふ乃友と呼くを
己と歎と夫ふ友の曰行て不可ふん疫祈ふとこれ
家ふいは人住すとして入てを例ふいは神いとを号や
故ふ上ふ家ふとふ為りふ曰ふふてやふ一疫
祈後ふえふたれ赤ふ仏と無するのあふ侯
通如扶の札ふ門ふ自無んせんは後通加扶ふ巻ふ
無んすとふいは小やの札も赤行の扶ふわん後ふいを

く爾の頭も信心からとかの條差に貧人の札とのませて者
とてやすく安産せしといふも或ハあらん
一 猿猴の手をとりて月をとらんとするを遁世に取しハ一世にも
非ず猿と猴とハ一つにわたりて其性をかたく扶くなるものと見
埤雅曰今猨不復践土好上茂木渇則援臂而飲
とそるといふすと猿すくさるすしよりしも色あるものゝ但祇律
曰有五百獼猴遊行見樹下有井井中見月共執樹枝
手尾相接入井取月 これハ猿の喩なり亦見えると接して
彩るくとそんるゝより月とあれと云今図するもの上天に向く
なとのへて月をとらんとするハ其性にハあらず
一 本邦にてハ農民のみ時にハ時に遇ぬく奉士列ル其所
既也く歳年とつまり時ハ村若ハ苦労の外ハ苦ろと
わりとして大庄八箇所と帰する破辞してうけ或
ハこれとれを石のあとす彼とと不学なり何の子石
と称せん唯此札に遇ハ幸なりと破衣け滑川ハ銭十
文と落す乃大十文と以松明しくこまとさらし求めし
む人これを笑と回ハりふ分子みと世に伝ふる十銭今ねだん
ハ永く水に流してしらぬへしと世これを奇志ともこれて
いの情くちうりとて何の損とかせん元ねうりとて何の
益するかん其のよきてそやするハ拗こうましく但も
益まて何く帰せずとうけさるこちに云元人の及ハさる禾
るりむ把わりちる破か貧人ち乃愁するものか

一同凡文節句れ事に当ても調伏といふことは世のまなわ
さる説のかりの中也、其義と見るや日本にてすなはち
天平も末末代まで入りてす萬帝より日本に当てても
さる不吉人有し故に当むのを調伏せしとハいふへし
求めて益なしとてすこしも損けし

一周穆王化人にまみえて天に上り帰ること数十年後悲
しみすゝのなる事晋の王質山に入仙人の棋を囲とみる
後斧の柯くちて家に帰りしハ漢の劉晨阮肇
天台に入迷ひ仙境にありて帰ること後すでに帰れハ
七代の孫に遇ふ一ハ此世を疑ひしてみる所を示します
一ハ此世を出りしてみる所を疑ひす穆王のことハ夢れ
めしも虚実とさだめず夢中なりと虚なる所も夢に
人に語るなり故夢に託する事ハまた夢中ハ
虚なれども見しハ実なり斧柯の夏ハりと云ふべし

一謝肇淛曰淳于棼沈酒遺世而耳為之塲亦有激之言
也陶潜が記せし桃花源もとと云ふ詳に林子が三教
會編に見えたり、其仙境に入ること月日をとゞめて
久しとしいふハ魅に惑されしとも見えず唯此仙
に託して設る所の安楽なる人の来るならずなしとす
只此武陵幾年とが稀人異人文と巧なく虚を実
とす今の実にありとせハ聞の事なし

一古婦人の名に丈夫或は父の受ける名をこもなる事ハ非

寸相模ハお撰ち公賀ゝ妻女名乙侍従袋帯紙ゝ入て
しゝ和泉式部ハ御ゝ物語ゝ携候ゝ妻拾弐物ゝ入てゝ
左宰大式童ゝ妻大式二位ゝ伊勢ゝ徒然ゝ女伊
勢ゝ清少納言ゝ書ゝ失ル

一 私ハ公武対ゝ自己ゝ称ス非ゝ仰ゝ如ゝ
義ゝ顔府群王ゝ賊私某也天子之賊私伐礼家臣
称ス私ゝくのゝハゝ対する月称ス

一 同ゝ今の何ゝ日ゝ
器ゝゝ

一 同ゝ他ゝ水上ゝ

来物ゝ

俗耳談巻之五

寛斉先生口語

門人　矢嶋泰度筆

一　物の多く及しくさるもの多し蓮羅樹を中宣
廣義行ハ中実沈香ハ沈む弱水ハ毛を浮ケ庭列
瀾水を鉄とも南海浮石の山を火崩ハ火をやけて
蕭山の火もく消ハ[illegible]くわと爨ーーれ者足る事
及するものなり今谷を古のお不ハ信せず

一　初しるれい実のるくてうを猴と称ハ行れ円に
もるさるの石中を地のわるしとハ弧弧を
ゑくるる猫の足けるる中わるしとハ儒門事新を
しるる又石中を蛇を此中を大崩わるこれる

おのわるまきき古にしくるを況や化政年と御
とゝくも世の弓さるものハ指御
一 御列知ゐ弘長田物とゝ里人長田ら巳魂とゝ
指はゞこれと武文物御村物とゝ西国年家物と
ゝ門書とゝ長田ら武文ハ古
年化ゝ文ゝ御村ハ播列浦上信代の所ら陸
奥貴則とゝし中国を記年に百一古細川
ゝ御ら所等とせハ偽ゝ凡ゝ御ら御物
ゝ御ら御ゝ名つけ御ら置ゝ年
ハ物とせんや見ハ中むゝ人ら毫面解ら
一 北ゝ京氣にわてらゝ湯とゝ古ゝ
と京庠ゝゝゝ遠ゝゝ如ゝ御文記の
御代ゝ御ゝ先食ゝ只衣技と主御ら
風氣の出ゝと御ゝ記ゝに初ん侯古年侯田ら
ゝ御ゝ病ゝ新社国ら起ゝ流宗人多ゝ実
ゝ社ゝ御ゝ国ら御ゝ人ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ病ゝ御ゝ者好ゝ京師ゝ
ゝ御ゝ御ゝ人ゝ長ゝ
表ゝ青茅ゝと御ゝ一ゝ記ゝ個ゝ
一 化政年一城ゝゝ二城ゝ三城ゝ
ゝゝゝゝゝ者ゝ非ゝ南時庠ゝ出ゝ数ゝ
将ゝ城の義ゝ個ゝ二城ゝ毛城別の義ゝ

俗のむすめの一首二首の歌とは誤りて河海と九皐と
りて行て日後光教帝函とせし孫献牧ものうら
く九献まて関れけるとこへ九皐とりて海人藻苅
ゝ　中院上公の礼九皐河海
ゝ　礼と礼ゝハわ
一　礼わ礼と礼すの上皆を付と本
平年家ハ平氏のゝ　保元年治ゝ年号の時代年今
育ハ今の育ゝ　本沼礼せ　獨行樂わ礼ゝ古
撰者の名と礼すの他の例ゝ失せ
一　獵師獵者獵人並ゝ也詩ゝかゝとゝ俗英
とゝとゝとゝゝゝゝゝ人とゝとゝゝ誤ゝ仏
ゝ礼ゝ酉陽雜俎云僕不得魚訪之於獵者則獵人

山海とかゝものゝ西でいゝ河海すもの器師とゝ
字彙ゝ名漁師とゝゝハ月令ゝ及ゝゝと書ゝ
ゝ桃源行ハ見しゝ　狩神後記ゝハ漁人とゝ
一　俗ホ字等の字ゝすゝゝ和とゝ
ゝゝゝゝゝ久しゝゝゝ義之れ草書ゝ示ゝ似ゝ和
ゝ名字の器ゝくゝ年芭画ゝ近俗訪て題ゝ下
ゝ尤題ゝ対せゝ心遠和歌と失せ
一　大ゝゝゝ花ゝゝゝゝゝ出ゝゝ老人も花の後
なゝもゝゝゝ沈休文発定山詩云山櫻発欲然又杜
詩ゝ山青華欲燃ゝもの朱色ゝゝ
一　布袋和尚名我ゝゝ若是安ゝゝゝ成

を画ク或陶ヲ或ハ木ヲ彫ハ木ヲ彫ハ
そなふるを俗七福神と称し布袋ヲ
一ツ伝ふ福とすると云す傳佛祖流記ニ詳ナリ
ヲ中ニ云人の去ルと云ハ浜わらと也ん福神ニ
列するの内袋中ニハ神酒木履魚飯菜肉瓦石等
と納ること福とすべきものの非ずして行の義と
そうと云ん

一 向山のそばけいこけいんそうの日峠ハ嶺ヲ朱子日
横見成嶺旁見成峯説文峯注ニ峰也字彙嶺注山坡
也又山路也こもかく他ニそうこ嶺峯ヲ一地ヲ
又ヲ云ふ又ハ峠ハ峠ヲ又山ヲ峠と云ふ

岳字山ヲ又一山ヲ峰ヲ

一 向ふかうむ名ヲ曰詩注名物考解ニ兒ヲ犀
のたれかく一角わるものとすれハ蓋見ん珊瑚ヲ
云ふわかるハ中庭前ヲ也ヲ拠ヲ

一 林五郎通元荒ヲ場ヲ云ハ先れしること故本内家集
まんしうに芸畧曰庫指ヲ物ヲ庫ヲ指ヲ せんとして
くこて谷ヲ蔵ヲ杉枝ヲ狩人ヲ わけられる次深山ヲ
大石風かく本居ヲ子し山ヲ て谷ヲ と埋し通元土中ヲ
こうる後大石法水ヲ流して清ヲ又香石合戦ヲ 敗
軍級くこて一指歌ヲ文ヲ ヲ又解全ヲの城中
(添入一市門大ヲ ハ岩ヲ下ハ岩ヲ海ヲ葉二把

子安く流る為に流る陳書に載沈文阿の
既往くに死る子自投しく又死る子梁の使を引く
人寛と語西洲して言る殺し殺されて林の
と共ちとしくしも先きしきと先る一の運天
主ことん実しく南れり人
一めくらるといふ名言るとそくて布巾足と溷
めはこれと教くさ仍し方へ手四寸仍すとり
こと鵲の堺雅及五雑組ふくこと
一廁と書屋といハ雪竇禄師雪竇禄師と廁と磯
と月の出ること名つくと柄谷廣法師しり
一あるんがるといハ盥減の字く減とんとすハ右書
ちりけんといふ語ちり
一向ふ子ぬれ字る日食字の字書被注寢衣也衾注大
被大也ふくらかなるし秋名云被披也被霞人
せこれ寢付ふこるわりる又云衾ハ大也其下廣大
如ち受人せ云ふくハ袋ふ子まるり裀ハ衾の小
ちりり俗襖の字くハ非ふる字書ふ衾の屬と注
それハふそま書
一唐の中限ろろ等九十二名ふ故これと十二宮と
亦十二直と以直字の字お詳未義ふ故作建
体と弘すとこるのこ九三百六十一四ふ其の建体
の支干と同ふ九ふ合十ふ

一学術今日吾等[illegible]と称する[illegible]分り
但又仏状のごく抑事[illegible]豊花
[illegible]きんや茶謨ゝ彭蜞と
さると嘆す清河王閑目と曉らず房叔道ゝ向く
[illegible]く蓮子[illegible]と書と読さ和仏のごとく歎
す又列子云天の隆じと[illegible]世説ゝ載美の
図と覓ゝさる図さくゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
一今助訓の訓古ゝの雅仏[illegible]万葉集ゝ訓ゝ三
の仏ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ額田王いゝ[illegible]
きすけこしやきんきんわゝこゝ[illegible]
[illegible]くゝまのまゝ我[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]ま号[illegible]十九備[illegible]行[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]

一同和尓雅云東方日出ゝ地故称[illegible]鮮古ゝ日出ゝ[illegible]
我ゝ[illegible]ゝ[illegible]鮮又ゝ義ゝ[illegible]ゝ日来ゝ[illegible]
ゝ貝原氏又按ゝ[illegible]来抜史紀索隠曰音閑仙以有
山水故名ゝ[illegible]日出の義ゝ[illegible]ゝ[illegible]房[illegible]ゝ[illegible]
一印ゝ押上ゝ名次ゝ八字下ゝ号ゝ次ゝ[illegible]ゝ義古今印史
ゝ詳ゝ又号字ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ名押ゝ[illegible]ゝ新ゝ流
解序ゝ押ゝ下上牧[illegible]蒙史下回文ゝ[illegible]ゝ銭謙益
下ゝ又淮南ゝ序ゝ下ゝ抑ゝ[illegible]ゝ[illegible]仲父下陸

雁印とをれくゆめとこうとかくへ
これを故事もの多し二氏未こたをと事せらしの
多う方く作史の法をとうとくくて又姓氏のこれ有
究よりをくくて作と押ハ三つくこそまる

一 蟄室を方ハ素作の者と忘四よ本多ゆく茶煙と杯風
商人を手多ゆとりすくて或人のひし未ゆ作や
と方すり蘇軾物類相感志曰蠶畏鼓聲則伏而不起
亦畏雷故也この説ハ方くさんちゆ又一ゆ川物
類相感志曰鷄鶩伏卵忌磨若聞龍若磨之聲則不生矣
此語会行ハるくわ逆を中こをこうるゆ作うこ方れわ
多うこうるう蓋賛寧の書
と畜されハ誠ゆ方くこ

一 馬醉木と我つ名わせ作くくくく余ハ或をわせりて孰
原百首の多おそうつりけくまこのこれ方ける
しのけ示わをくむくくこてこれハ吾ゆ名のうう紀も
わをくく考命せくも多く未孰う訛とをくて

一 向舟考状ゆん新うをくて紀ハ行て日方こんゆく
祢ゆきをうくと一方ゆくくう今ゆ方と方ゆ源氏宣
幡日ゆくを方祢う人ハわうくきものとを見くをくと文
ゆ多日いを方祢くとやくくうゆらもけ紀くハをけ
何者ゆ見いくゆや今の世ハけをくて知人さくし罕ゆう

新の字ハ字書ゆ方

一 向こひやくくハゆ方ゆ長大うれ採わ永長大うう

短小なるを採るもの也 未短小なる故に弓を以て人の
を短とくらの者義作八物わくらとれ為に欲に小兵とい
ハもんと差として孔揚しと作さこれを虚実八ちくるも
さ汎久に伝文短字注有所長短以矢為正徐曰若以
弓為度を中たを短弓矢ら以度とす小兵大兵に
義に適に

一

人のよハ弓ハ和製のてしこれと振くたもハたし
惰のにくハたらしいるの者法ら淮南子訓山訓
白走不以手縛手走不能疾飛不以尾屈尾飛不能遠
物之用者必待不用者人の歩に二足とりれも一
足ハ手わらよりり荘子ハ者とと人と

一 同人竟華名名曰未詳但西陽雜俎云兎矢生陰湿地
淺黄白色或時見之生蒼耳根人多以罕生物
ものにてるるハ用を未亦年の内えしに汎
ものゆくるさ人家庭のしけくらるを汎
ろろろり菊蒟のわしと同合歓天前用年人既れ者
例のとまるを汎時珍の説と引名曰未亦の内
或人云淮死ろるを揚して果のとき迷ろるを
されハ伝わ人と汎しく又を者を汎ろ死ろれ
といわるをわるこれを恨未亦作すを他名
伝名伝と知るを東にてひとを又や京花
ろ古本引ろ同ろ紫華微見人竟竟と

[illegible]

一 凡物の名雅俗卿隠門[illegible]

らん不審紙といふもの上蝸牛とでむしとよ京未化

[illegible]又如列の知名弘天皇れ蛞蝓とまんそ

といひ[illegible]名戸姫[illegible]又何の書にもえす

以天地八吾[illegible]僅ニ十里と海[illegible]て未吾[illegible]これとも

ものわ[illegible]ものを況を国[illegible]八吾知[illegible]ん

一 徒ニ[illegible]備義学問一次第学問一疲帝これ始

義理とのさ[illegible]ものわ[illegible]化性と物じ[illegible]

わ[illegible]名失す充傳ニ迴[illegible]書麓の説[illegible]澄[illegible]

書厨の号とはいふも唯已徒情のこゝ解すること例

学理蒙昧書と検く学のきものゝ仮[illegible]

一 わ[illegible]の祐[illegible]ところ[illegible]葫蘆の書とれし

[illegible]成ところ[illegible]れ[illegible]知[illegible]

[illegible]華の絶倒[illegible]

[illegible]八指[illegible]に[illegible]八晒[illegible]丈子莞尓哂[illegible]

[illegible]八仏仏の解頤とす

国立公文書館
National Archives of Japan